

第一番 左澤学校

共生 One for all, All for one

尊い ほんとうによかった

雲梯から落下。救急搬送。1時間余りの出来事。気丈に励ます母の姿。仕事を捨て、駆けつけた父。冷静に対応する救急隊員。懸命に対応する教頭先生、先生方。救急車が出発する。母も同乗。教頭先生は後を追って病院へ。

翌日、退院。すぐに母子で来校。笑顔だ。学校の対応に感謝の言葉をいただく。こちらが恐縮。

感謝を言いたい。先生方のチーム対応に感謝。病院へ駆けつける担任の後ろ姿は尊い。私の学校は、全教職員が仲間だ。子どもの無事を願う親の姿に心が動く。私たちは命を預かっている。



地域貢献活動



伊藤順一校長先生が大切にしている言葉だ。来月、「地域貢献活動」をテーマに東北連合校長会青森大会で、私は県代表として発表する。なにか縁を感じる。

迷いがある。私は行事をつくるより、軽減に意識をおきたい。地域に響くあいさつだって、立派な地域貢献活動だ。

一方、「3年続ける」という考えも持っている。中途半端はよくない。やるなら子どもの内面が育つ活動でありたい。結果として地域貢献になるなら継続もよし。

生徒指導部には知恵を絞っていただいた。担任には子どもの心を灯してほしい。

あたいまえのことをあたいまえに



何か一つ徹底して

それがやがて、別のものにも「転移」していろいろなことがやれるように、できるようになる。「あずだす」から

5111。繰り返すが5111。学びの構え。

質の高い学びの基盤。よい習慣は一生の財産。

上田さんの仕事

役職名「学校支援員」。市町によっては「地域学校支援コーディネーター」。新しい仕事として大江中学校の職場体験も支える。地域の商店・工場と大江中とを文字通りコーディネートする。夏休みには職場を巡回する。勤務の基本は左沢小であり、特に変わらない。これから町の商店や工場の方々から、本校に電話が来る。中学校も小学校も地域とつながる。うれしいことである。